

第38回ニュータウンマラソン大会の結果発表

2023年11月28日(火)に開催され、選手180名、役員75名が参加しました。主催は連合町内会、町内会、スポーツ推進委員、青少年指導員、保健活動推進員、スポーツ団体、旭中と中沢小PTA等です。

昨年に続き藤尾美佳さんがタイムを1秒縮め、今年も大会新と健闘しました。



1.小学生低学年 女子の部 2km	1位 関根 幸乃 10分39秒 2位 江原 玲衣 10分49秒 3位 岩崎 結希 11分20秒
2.小学生低学年 男子の部 2km	1位 中野 湊介 9分22秒 2位 所 映多 9分30秒 3位 木下 春斗 9分45秒
3.小学生高学年 女子の部 2km	1位 諏訪 英美 8分59秒 2位 古江 杏菜 9分08秒 3位 松橋 葵 9分18秒
4.小学生高学年 男子の部 2km	1位 野島 大治 8分18秒 2位 野上 凱斗 8分22秒 3位 門脇 圭祐 8分27秒
5.中学生 女子の部 2km	1位 石原 心織 8分39秒 2位 鈴木みこと 9分16秒 3位 山口 愛心 9分59秒
6.中学生 男子の部 4km	1位 中村亮太郎 16分00秒 2位 坂本 一希 16分46秒 3位 飯森 大輔 16分49秒
7. 45歳以上 女子の部 2km	1位 藤尾 美佳 8分10秒 (大会新) 2位 川村 亜実 10分19秒
8. 45歳以上 男子の部 4km	1位 川村 佳史 15分54秒 2位 馬越 学 16分02秒 3位 佐々木唯吉 17分15秒
9.一般 女子の部 2km	1位 前田由希映 9分56秒 2位 吉岡麻理恵 11分18秒 3位 蓮見 美香 11分24秒
10.一般 男子の部 4km	1位 木下 永司 17分13秒 2位 白金 敏彦 17分26秒 3位 前田 崇行 18分57秒

<編集後記>もともと第1面は、昨年11月の防災訓練を掲載する予定でしたが、元日に能登半島地震が発生。私たちへの教訓とすべく被災状況に触れさせていただきました。ニュータウンに目を向けると、第二町内会と南部町内会では独自に防災組織を立ち上げ、初期消火用スタンドパイプを導入。さらに南部では年2回「南部防災 News」を発行し、また2022年に町内全世帯に「災害時連絡カードキット」を配布。西部町内会では防災部会が2022年に「防災マニュアル」を作成し町内全世帯に配布。災害への備えを今一度見直す時期かもしれません。

◆発行責任者 / 連合町内会 会長 山内良夫 社会福祉協議会 会長 宮寺良孝
◆編集委員 / 阿久井直美 小菅昭 福本瑠美子 小川美枝子 石村保子 小野寺慎一郎

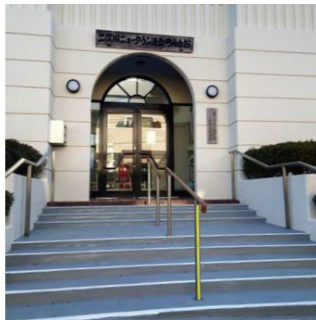
連合町内会館の大規模修繕工事が完了しました

建築して40年以上が経過した連合町内会館は、老朽化が進み、コンクリートの塗装ははがれ、割れ目も生じて防水機能が低下してきていました。

そこで、今年度約800万円の予算を組んで、老朽化対策と高齢者や障がい者対応を目的に大規模工事を実施。約2か月の工期を経て12月2日無事終了しました。

老朽化対策として、外壁塗装工事、屋上の防水工事、会議室のカーペット張替工事を実施し、高齢者等対応としては、正面階段のコンクリート張替工事と手すり増設工事、車いすスロープ設置工事、多目的トイレ設置工事、さらに夜間の安全対策として玄関周りの照明等の自動点灯工事を実施しました。

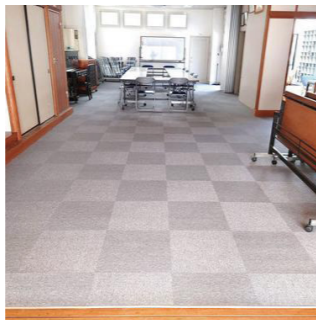
今回、予算の都合でできなかった工事(和室の畳の張替工事、台所のエアコン交換工事、ガラスの遮光工事など)も今後できるだけ早く検討し、40年、50年先の子どもの世代、孫の世代までこの連合町内会館を残していきたいと考えています。



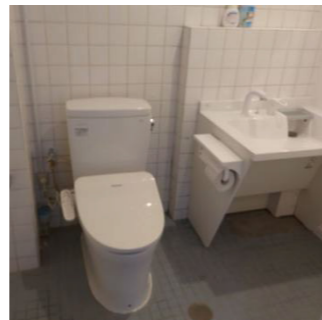
正面階段に手すりを設置



車いす用スロープを設置



室内カーペット張替え



多目的トイレを設置



二俣川ニュータウンだより

Vol. 8

◆編集・発行 二俣川ニュータウン連合町内会 二俣川ニュータウン地区社会福祉協議会

2024(令和6)年
3月16日発行

いざというときのために。防災訓練を実施

2024年1月1日16時10分に石川県能登地方でM7.6震度7の大地震が発生し、広範囲に渡りライフラインが破壊され、多くの方々が被災されました。十分な支援が早く行き渡ることを願ってやみません。

<能登半島地震で被災した住民からの声>

- ①安否確認がなかなか進まない②避難生活でトイレが困った
- ③避難所が寒くて眠れない④避難所で感染症がまん延
- ⑤避難所が満杯で入れない⑥水や食料が直ぐに届かない、など

ニュータウン地区では日頃からこのような災害が発生することを想定して防災訓練を実施していますが、さらなる防災活動の強化の必要性を改めて認識する機会となりました。

昨年11月11日(土)にニュータウン地区では「朝8時に震度5強の地震が発生した」という想定で、各町内会と二つの地域防災拠点(旭中、中沢小)で防災訓練が実施されました。

まず、各町内会の住民が朝8時に「災害時のご近所集合場所」に集合して黄色い旗による近隣住民の安否確認作業を行いました。これは発災時に安否確認を迅速に行うための取り組みであり、黄色い旗が出ていない家には声掛けをして安否確認作業を実施します。この訓練には旭中1年生も参加し、一緒に町内を回りました。



黄色い旗を使った近隣住民の安否確認訓練



プールの水を使って下水道にし尿を流せる「はまっこトイレ」の設置訓練(旭中)



<能登半島地震>安否確認作業に従事する消防隊
出典: 中日新聞Web 2024年1月4日



<能登半島地震>避難所となった体育館の様子
出典: 中日新聞Web 2024年1月2日

その後、旭中と中沢小に移動して地域防災拠点訓練(避難所訓練)が実施されました。この訓練には旭中1年生と中沢小6年生も参加し、生徒児童たちが地域の住民活動と防災拠点活動を体験する貴重な機会となっています。旭中では避難所照明設置、仮設トイレ設置、炊飯作業(おにぎり試食)、段ボールベッド組立などが、中沢小ではポリ袋を使った炊飯作業、トイレバック訓練、HUG(避難所運営ゲーム)、エコノミー症候群防止対策マッサージなどが行われました。(詳細は2面に)。また、11月5日には地域の皆さんに自宅の火災報知器の一斉点検をお願いしました。高齢者だけのお宅では希望により後日消防職員による点検を実施しました。

避難所に収容できる人は50人に1人程度 在宅避難に備えよう!

ニュータウン地区の災害時の避難所は旭中と中沢小の2か所です。ニュータウン地区には1万人以上の方が住んでいますが、この2つの避難所の収容人数は限られており、また備蓄品の量も限られています。自宅で避難生活を送れるよう、家の耐震化や備蓄品の用意をしっかりとっておきましょう。(詳細は別途配布の「防災特集」をご覧ください)

二俣川ニュータウン地区ホームページ

連合町内会: <https://www.futamtagawa-newtown.com>
社会福祉協議会: <https://fnt-shakyo.sakura.ne.jp/>



●旭中地域防災拠点運営委員会は活動を通して「地域のリーダー」を育てます

拠点運営委員会の委員(市民ボランティア)は40名強。約半数の委員は各町内会の班長さんたちが任期中の“年季奉公”で派遣参加しています。運営委員は4つの班に分かれ、避難所開設に必要な作業を学び合います。その中で、避難所開設と運営が基本動作よりも、むしろ臨機応変の連続であることを痛感することになります。

年に一度の防災訓練。旭中防災拠点では、住民は避難所開設のノウハウを、運営委員からではなく中沢小の児童や旭中の生徒たちから教わります。実はこの児童・

生徒たち、“将来の地域リーダー”となることを目標に、事前に運営委員からプレ訓練を受けているのです。

こうした一連の過程を通じ、委員も子どもたちも、そして住民も“教えることが一番身に付くこと”や“臨機応変”が重要であることを、身をもって学ぶことになりま

「やること、やるべきこと」と「やったこと」はまるで違うことを理解し、その重要性を再認識します。“年季奉公”が明けても何人かが委員として残るのはそのためかもしれません。



防災拠点訓練の打合せ
(2023年10月21日)



旭中で防災拠点訓練を実施
(2023年11月11日)



中沢小で防災拠点訓練を実施
(2023年11月11日)



エコノミークラス症候群防止
マッサージの講習

●中沢小地域防災拠点運営委員会は発災時に「7番目の町内会」を立ち上げます

中沢小学校地域防災拠点運営委員会は、明日起こるかも知れない首都直下型の大地震に備え、地震の規模をM8及び震度7、防災拠点開設期間を1か月と想定して活動しています。

大地震発生後は、避難対象の6自治会・町内会から選出された30余名の運営委員を核として、避難所を「災害時に立ち上げる7番目の町内会」と考え、避難所に避難された方と協力して運営を行います。

一方、在宅避難の皆様とも各自治会・町内会を通して緊密に情報を共有するために、今年度から避難対象の自治会・町

内会の班長会に出向き、班長の皆様に、大地震発生時の拠点の動きと各自治会町内会との連絡方法等を直接説明する機会を設けています。

今年度の防災訓練では実際の地震発生を想定し、校門を閉めて参加の皆様と並んで開始を待っていただき、開門後一斉に受付を開始する方式をとりました。他には、ポリ袋調理の白飯試食、エコノミークラス症候群防止マッサージ、トイレパックの使い方、HUGを参加者全員に体験していただきました。



令和5年度 社会福祉功労表彰を受賞されました おめでとうございます

川島正晴さん
〈活動内容〉
チョコットしえんたい
〈活動期間〉
16年6か月



坂東節子さん
〈活動内容〉
チョコットしえんたい
〈活動期間〉
16年6か月



横浜市旭区社会福祉協議会の令和5年度社会福祉功労表彰(地域福祉功労)を受賞された皆さま、永年にわたる地域福祉への貢献に心より感謝申し上げます。

4年ぶり!「社協もちつき大会」が開催されました

2024年2月3日(土)に4年ぶりとなる「社協もちつき大会」が中沢小で開催されました。約1,000人の来場者があり、準備には福祉協力員、スポーツ推進委員、青少年指導員、保健活動推進員、環境事業推進委員、チョコットしえんたい、家庭防災員等の総勢85名のご協力がありました。旭中地域防災拠点運営委員会と旭中・中沢小保護者ボランティアの皆さまには800杯の豚汁の炊き出し(無料)を担っていただきました。また、本部席テントに設置した能登半島地震の募金箱には計18,170円のご寄付をいただきました。ありがとうございました。



榎藤由紀子区長も餅つきを披露



800人分の豚汁を調理



子どもたちも餅つきを体験



お餅は校庭の東門まで長蛇の列です

◆2023年 社協講演会を開催

「保護司活動を通してみる、家庭・地域社会と学校教育とは?」をテーマに



2023年11月18日(土)に出井善次社協会長代行に講演をお願いし、次のようなお話をいただきました。「保護司は、少年法のなかで少年の保護や更生支援を手助けする活動を担うと規定されています。少年の成長には家庭環境や学校、地域社会との連携がとても重要です。大切なことは非行・犯罪の道に走る前に、学校そして地域のなかで予防に努めることです。保

護司は、通称『愛を注ぐ』活動を通して社会のルールを踏み外さないよう事前に手を差し伸べる活動をしています。

仮に一度転んでも、起き上がる強靱な精神力を身につけられるよう手助けし、もしも自分一人では起き上がることができないようなときは、地域の大人が『この手につかまれ』と手を差し伸べる地域社会であれば、過去の事例が示す通り、必ずその人は社会に貢献する道を再び踏み出すことができます。少年の成長を、家庭・学校・地域社会が連携して見守り、立派な大人として社会に送り出してあげましょう。」



2023年並木愛護会の落ち葉清掃活動 皆さまありがとうございました

<活動結果>火・木・土 9:00~10:00
○こぶし並木通り 11月2日(木)~11月28日 計12回
○銀杏・トウカエデ並木通り 11月18日(土)~12月16日 計13回

2023年に新規の登録者は9名です。清掃活動に参加したボランティアの人達は総勢120名を超え、沿道住民、かがやきクラブ等、さらには旭中から地域防災科の生徒さん、中沢小からは4年生児童等に参加いただきました。

旭中、中沢小の生徒・児童が、地域の大人に混じって頑張っている姿には地域の一体感を覚えました。また、沿道の方々は曜日に関係なく落ち葉掃除をされていますので、地域全体でこの素晴らしい並木通りの景観を維持できていることが素敵だと思います。今期は暖冬のように、場所によっては、最終日を過ぎて葉が落ち切らず、一週間程度経ってやっと終了となりました。皆さまご協力ありがとうございました。



バス通りの落ち葉広葉樹が色づき始めた頃



2023年10月22日の総会で活動日を決定